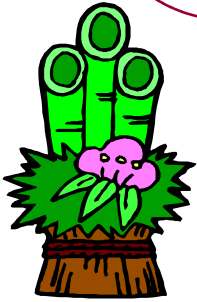


# 鳳

# 鳳和會便り

第4号

2004.1.1



# 明けましておめでとうございます

## 本年もよろしくお願ひ致します

会員の皆さん 新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。昨年は時田会長が体調を崩し入院されたため、祭礼におきましては私が代行として会長の職務を務めさせていただきました。お陰様で6日(土)の町内渡御、7日(日)の両社祭連合渡御を無事に、また盛大のうちに終えることができました。これは、会員及び賛助会員の皆様のご支援、ご協力の賜物と厚く感謝申し上げます。

さて、鳳和會では現会員の親睦と新たな会員の増を図るための試みとして、昨年はボウリング大会を開催し、約40名の参加がありました。今年もどなたでも気軽に参加できるよう、屋形船クルーズを行うこととなりました。詳しくは、下記をご覧ください、できる限り多数の会員の方が参加していただければ幸いです。

本年も9月の祭礼に向け、役員一丸となって準備を進めて行くつもりでありますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。  
会長代行 副会長 佐藤真一

## 屋形船参加者募集！！

会員親睦会第2弾の企画として、今年は下記のとおり「江戸情緒！屋形船で夜景と舟遊び」を行います。会員登録の方は会より補助がありますので、ぜひ、多くの方の参加をお待ちしています。参加される方は別添の申し込み書に参加費を添えてお申し込み下さい。

日時	平成16年2月22日(日)	出船午後5時
集合	中原街道沿い 三井住友銀行荏原支店前	午後4時 (直接現地でも可)
船宿	舟清	03-5479-2731
参加費	会員・賛助会員	1人 5,000円 (通常10,000円)
申込み	ヤマザキショップ ふじや	
問合せ	事務局(高橋)まで	



**高橋則一です。今回の則一レポートは、恒例の秋の一泊旅行の様子をお伝えします。**

今回の宿泊地は、福島県信夫高湯温泉の花月ハイランドホテルというところですよ。奥州三高湯といわれ、葦王高湯、白布高湯と並ぶ秘湯です。吾妻小富士(1707m)の中腹にあり、日によっては福島市にかかる雲を見下ろす雲海が楽しめるそうです。

**11月1日(土)** 午前9時に集合した参加者は18名でしたが、この旅行のお世話を下さった長村さんは、体調のことを考え新幹線での別行動となりました。残る17名がバスに乗り込みいざ福島に向けて出発です。都心を抜ける首都高速は意外なほど順調でしたが、東北道に入るころには三連休の初日ということもあり混雑が始まり、最初の観光地である中野不動尊に到着したのは午後4時頃でした。

中野不動尊は、日本三大不動尊にあげられ、他に成田不動尊と、我が地元、目黒不動尊があるそうです。(鳳和會三(大)高橋といえば、高橋幸雄 高橋則一 高橋成次 だった) 細く入り組んだ洞窟内にある三十六童子や、不動滝などに御参りをしこの日の観光は終わり、花月ハイランドホテルへ向かいました。ホテルに着くと仲居さん達と別行動をしていた長村さんが出迎えて下さいました。



楽しい宴会

早速、秘湯といわれる温泉に入りました。泉質は白く濁った硫黄泉で、とても良く温まりましたが、市川副会長は硫黄の臭いが苦手な様子で、「ね～、もう出ようよ」と、ちょっと弱気、その後、宴会、カラオケ、ラーメンまでやっつけ、床に就いたのは深夜2時、ここからはまるでジャングルの様、夜中に硫黄の湯の中を潜水して女子風呂に忍び込んだために、バチが当たって目が痛くて眠れないと叫んでる奴、その他イビキなどは当たり前、カエルの鳴き声のような歯軋り、中には「チュパチュパ」と奇妙な音を発してる奴もいたそうです。(俺?)

**11月2日(日)** 朝食を終えると、ここでお子様の七五三のお祝いが有るということで浦野さんが東京へ帰られ、残る16名がバスに乗り込み、午前9時、天気は快晴、全員二日酔いも無く元気に出発、吾妻小富士の山頂を通る磐梯吾妻スカイラインを登り会津若松へと向かいます。途中、秋元湖、桧原湖、



会津酒造歴史館(宮泉酒造)

を通り、会津若松に着いたのは午後2時近く、遅い昼食は、新そば(うまかった!)に、そば焼酎のそば湯割り(これもうまかった!)と、そば尽くしでした。ここから、歩いて飯盛山に向かいました。飯盛山は、白虎隊の集団自決で有名な所です。敗走した白虎隊少年隊士たちは城下に立ち上る炎を見て、鶴ヶ城の陥落と思い集団自決をしたと言う悲劇の舞台です。隊士のお墓をお参りし、飯盛山から見る鶴ヶ城や、わらび堂などを地元のガイドさんに案内していただきました。

その後、会津酒造歴史館に立ち寄り酒造りのお勉強(当然利き酒も)をして今回の旅行も帰途に着くことになりましたが、帰りの東北道は想像を絶する大渋滞。食事休憩を挟みながらようやく荏原にたどり着いたのは午前0時を回り、鳳和會旅行始まって以来の一泊三日となってしまいました。 皆さん本当にお疲れ様でした。今年の旅行は信州方面の予定?

多くの方の参加をお待ちしています。

PS 次号は、年明けのレクリエーションの様子をお伝えすると思います。

**2003年版 祭礼のビデオを貸し出しています。**

鳳和會撮影のビデオ(約30分)

品川ケーブルテレビ撮影(約1時間)

以上2本のビデオの貸し出しをしています。レンタル希望、購入(1本1,000円)希望の方は事務局まで

## 「千社札」について

「千社札」は、観音巡礼における参拝奉納のしるしである「納札」の習俗より生まれたと言われていいます。私利私欲ではなく世の中の安泰、家内安全を願っての千社参りにその納札が、貼られるので、「千社参りの札」を略して千社札と言うようになったそうです。

本来は信仰目的だったものに江戸時代になると遊びの要素が加わってきて、いつしか江戸っ子の趣味となり、自分の札の作成に「粹」、と「洒落」をおりこんで交換する会までができ、現代まで続いています。貼り方にしても本来は手の届くところに貼っていたものが、より目立つところ、高いところとエスカレートし、この目立つところに貼る事を「人見」と呼び、風雨にさらされぬところに貼る事を「隠し貼り」と呼びます。

千社札には2種の札種があります。1つは墨一色の「貼り札」。これは山門や社堂に貼って、札が剥がれ落ちるまで自分の代わりにご本尊と結縁してくれる、いわゆる「おこもりする」と言う民間信仰に使います。2つめは、きれいな色づかいの多色摺りの「交換札」。これは千社札の愛好家が年に何度か集まり、新しく作らせた自慢の色札を交換し合うときに使います。

千社札を縁取る2本の枠は、「子持ち枠」といいます。枠の寸法は、太枠の外側がタテ約 14.4cm、ヨコ約 4.8cm で、縦横の比率が 3対1になっています。

文字の書体は江戸文字が使われますが、この文字は幕府の公文書に使われ庶民の生活から生まれた文字、歌舞伎の「勘亭流」、相撲の「相撲文字」、寄席の「寄席文字」、千社札の「千社札文字」を総して江戸文字と言います。千社札だけが職業に関係なく個人の世界のもの、絵師、文字師、彫師 摺り師と工程を経て和紙に仕上げる一枚の庶民芸術の札。江戸時代はお家流を少し个性的にした程度で、ちょうちん屋が兼ねる場合が多かったそうです。専門の書き手では生活ができず、副業で書の好きな人が道楽のつもりで始めたのがきっかけで注文がきて一生やるはめになった例もあります。江戸末期頃から明治初頭にかけて、署名を残した人は何人もおりますが、明治、大正、昭和にかけては初代、二代「高橋 藤」氏、初代「太田櫛朝」氏が居り、所属の納札会の書家としてレタリング形式で書体を創り千社札文字を確立させました。「二代目高橋 藤」亡き後、現在では日本でただ一人の江戸文字の書家「鈴木本和」氏が受け継いでいます。

副会長 市川 努

### パソコンをお持ちの方はメールアドレスをお知らせ下さい

「鳳和會便り」及び会からのお知らせ等は、現在会員宅に直接配布をしていますが、パソコンをお持ちの方には今後メールでの配信をしていく予定です。また、ホームページも作成中ですので、現在お持ちのメールアドレスがある方は事務局までお知らせ下さい。また感想、ご意見等がありましたら気軽にお知らせ下さい。よろしくお願い致します。（事務局）

### 事務局

電話 070-5020-4932  
(13:00 ~ 21:00)

FAX 03 3783 8027